

平成28年3月期 第2四半期決算について

ANAホールディングスは、本日10月28日(水)、平成28年3月期 第2四半期決算を取りまとめました。詳細は「平成28年3月期 第2四半期決算短信」をご参照ください。

1. 平成28年3月期 第2四半期の連結経営成績・連結財政状態

(1) 概況

- ・当第2四半期のわが国経済は、一部に弱さも見られる中で、総じてみれば、個人消費の底堅い動きや設備投資に持ち直しの動きが見られる等、緩やかな回復基調が続きました。また、先行きについては、中国を始めとするアジア新興国の景気が下振れする等、景気を下押しするリスクがあるものの、各種政策の効果もあり、緩やかな回復に向かうことが期待されています。
- ・前期は、羽田空港の国際線発着枠の拡大を機に羽田の国際線を充実させ、内際ネットワークの連携を強化しました。当期は、成田の国際線ネットワークのさらなる拡充を進め、国際的なハブ空港としての機能強化を図る等、首都圏デュアルハブモデルの進化に取り組んでいます。
- ・4月より『STAR WARSプロジェクト』を開始し、世界中に幅広いファンを持つ「スター・ウォーズ」に登場するキャラクターをデザインした特別塗装機を発表する等、グローバルな知名度の向上に努めました。
- ・ネットワークの拡充等により国際競争力を強化した国際線事業を中心に、訪日需要や北米～アジア間の乗り継ぎ需要を着実に取り込んだこと等の結果、売上高は前年同期を上回りました。事業規模を拡大する中でも営業費用の抑制に努め、コスト構造改革も計画通りに進めた結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに増益となりました。

これらの結果、当第2四半期の連結経営成績は売上高が9,112億円、営業利益は867億円、経常利益は829億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は539億円となりました。

単位：億円(増減率を除き、単位未満は切り捨て)

【連結経営成績】	平成28年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
売上高	9,112	8,548	564	6.6
営業費用	8,244	7,968	275	3.5
営業損益	867	579	288	49.8
営業外損益	▲38	▲98	60	—
経常損益	829	480	349	72.6
特別損益	0	102	▲102	▲99.4
親会社株主に帰属する 四半期純損益	539	357	182	50.9

単位：億円(単位未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成28年3月期 第2四半期		平成27年3月期 第2四半期		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空事業	7,880	811	7,422	518	458	293
航空関連事業	1,144	42	1,089	52	55	▲9
旅行事業	884	28	890	27	▲5	0
商社事業	715	30	613	18	102	12
その他	161	6	155	7	6	▲0

(2) 航空事業

① 国内線旅客

- ・北陸新幹線の開業に伴う競争環境の変化に加え、7月以降に発生した台風による欠航の影響等により、旅客数は前年同期を下回りましたが、需要動向に応じて各種運賃を柔軟に設定する等、増収に努め、収入は前年同期を上回りました。
- ・需要が高まる7月以降、羽田＝沖縄線で深夜便「ANAギャラクシーフライト」を運航したほか、中部・福岡＝沖縄線や沖縄＝石垣・宮古線を増便する等、需要の取り込みに努めました。また、「三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE」を夏のキャンペーンキャラクターに起用し、需要喚起に努めました。
- ・サービス面では、日本で初となる自動手荷物預け機「ANA Baggage Drop」を7月から羽田空港で導入し、よりスムーズなお預けを可能にする等、サービス向上に努めました。

結果として、国内線旅客収入は74億円の増収(前年同期比2.1%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国内線旅客】	平成28年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	3,532	3,458	74	2.1
旅客数(千人)	21,551	21,675	▲124	▲0.6
座席キロ(百万座席キロ)	30,307	30,647	▲339	▲1.1
旅客キロ(百万人キロ)	19,433	19,293	139	0.7
利用率(%)	64.1	63.0	1.2	——

② 国際線旅客

- ・北米路線を中心にビジネス需要が好調に推移したことに加え、全方面からの旺盛な訪日需要を積極的に取り込んだこと等により、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・6月より成田＝ヒューストン線、9月より成田＝クアラルンプール線を新規開設したほか、6月以降、成田＝シンガポール・バンコク線を増便し、北米～アジア間における乗り継ぎ利便性の向上を図りました。なお、ヒューストン空港においては、ユナイテッド航空との乗り継ぎ利便性を高めることにより、米国南部や、メキシコを始めとする中南米への渡航利便性を大きく向上させました。また、7月からは成田＝ホノルル線を増便し、需要の取り込みを図りました。
- ・サービス面では、主に海外のお客様よりハラル認証の機内食ニーズが増加している傾向を踏まえ、7月から一部の路線においてハラル認証を受けた機内食メニューをより充実させました。

結果として、国際線旅客収入は239億円の増収(前年同期比10.1%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国際線旅客】	平成28年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	2,596	2,357	239	10.1
旅客数(千人)	4,062	3,591	471	13.1
座席キロ(百万座席キロ)	26,333	24,718	1,615	6.5
旅客キロ(百万人キロ)	19,984	18,025	1,958	10.9
利用率(%)	75.9	72.9	3.0	——

③貨物

- ・国内線貨物は、航空貨物需要が伸び悩む中、新たな予約販売システムを導入し、空きスペース情報のリアルタイムな提供を始める等、需要の取り込みに努めましたが、円安の影響で国際線からの転送貨物が減少したこと等から、輸送重量・収入ともに前年同期を下回りました。
- ・国際線貨物は、アジア発北米向けの自動車関連部品等の三国間輸送貨物や、沖縄貨物ハブを活用してエクスプレス貨物の取り込みを図ったほか、8月からはルフトハンザカーゴAGとの共同事業の対象に欧州発日本向けの一部路線を追加しましたが、日本発貨物や円安の影響を受けた欧米発日本向け貨物が伸び悩んだこと等から、輸送重量・収入ともに前年同期を下回りました。

結果として、国内線貨物収入は5億円の減収(前年同期比3.7%減)、国際線貨物収入は14億円の減収(前年同期比2.4%減)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【貨物】		平成28年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
国内線	貨物収入(億円)	155	161	▲5	▲3.7
	輸送重量(千トン)	228	236	▲7	▲3.2
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	230	236	▲6	▲2.8
国際線	貨物収入(億円)	583	597	▲14	▲2.4
	輸送重量(千トン)	396	428	▲32	▲7.5
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	1,702	1,801	▲99	▲5.5

④その他

- ・マイルージ付帯収入やバニラ・エア株の収入、機内販売収入、整備受託収入等にて構成される航空事業におけるその他の収入は、961億円(前年同期比19.9%増)となりました。
- ・バニラ・エア株では、国内外において需要喚起のためのキャンペーンを推進したほか、航空券の販売開始時期を早期化し需要を取り込みました。また、航空券を取り扱う旅行会社数の拡大等により、利便性の向上に努めました。当第2四半期における輸送実績は、旅客数は896千人(前年同期比57.2%増)、利用率は86.7%(前年同期差12.0ポイント増)となりました。

(3) 航空関連事業・旅行事業・商社事業・その他

- ・航空関連事業においては、羽田空港や関西空港での空港地上支援業務の受託増等により、当第2四半期の売上高は1,144億円(前年同期比5.1%増)となりましたが、貨物の取扱量が減少したこと等から、営業利益は42億円(前年同期比18.6%減)となりました。
- ・旅行事業においては、国内旅行では、主力商品の「ANAスカイホリデー」が北海道・沖縄方面を中心に取扱高が増加したこと等により、売上高は前年同期を上回りました。海外旅行では、円安や欧州におけるテロの影響を受けて主力商品の「ANAハローツアー」の取扱高が減少したこと等から、売上高は前年同期を下回りました。なお、旺盛な訪日需要を着実に取り込み、訪日旅行の取扱高は前年同期を上回りました。これらの結果、当第2四半期の売上高は884億円(前年同期比0.6%減)、営業利益は28億円(前年同期比1.3%増)となりました。
- ・商社事業においては、リテール部門や食品部門、航空・電子部門の売上が好調であったこと等により、当第2四半期の売上高は715億円(前年同期比16.8%増)、営業利益は30億円(前年同期比66.0%増)となりました。
- ・その他については、保守管理事業が好調でしたが、事業費が増加し、当第2四半期の売上高は161億円(前年同期比3.9%増)、営業利益は6億円(前年同期比9.3%減)となりました。

(4) 連結財政状態

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成28年3月期 第2四半期	平成27年3月期	増減
総資産(億円)	23,198	23,024	174
自己資本(億円)(注1)	8,166	7,982	183
自己資本比率(%)	35.2	34.7	0.5
有利子負債残高(億円)(注2)	7,805	8,198	▲393
D/Eレシオ(倍)(注3)	1.0	1.0	▲0.1

注1: 自己資本は純資産合計から非支配株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

(5) 連結キャッシュ・フロー

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成28年3月期 第2四半期	平成27年3月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,711	1,222
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,230	▲1,562
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲564	221
現金および現金同等物期末残高	2,008	2,307
減価償却費	671	648

2. 平成28年3月期の見通し

- ・今後のわが国の経済は、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復に向かうことが期待されています。一方で、当社グループを取り巻く環境は、海外景気動向に対する懸念や国際的な各種イベントリスクに加え、国内外におけるさらなる競争激化も予想されます。
- ・このような状況下、「2014～16年度 ANAグループ中期経営戦略ローリングプラン」を確実に遂行し、「お客様満足と価値創造で世界のリーディングエアライングループを目指す」という経営ビジョンの実現に向け、最適な事業ポートフォリオの構築とコスト構造改革に継続して取り組むことにより、グループ経営基盤の強化と収益の最大化を目指してまいります。
- ・収益基盤であるフルサービスキャリア事業においては、国内線では需給適合を強化して収益性の堅持を図りつつ、国際線では拡大を続けるグローバルな渡航需要を着実に取り込むためにネットワークの拡充を進め、首都圏デュアルハブモデルをさらに進化させてまいります。

以上により、4月30日に発表いたしました平成28年3月期の連結業績見通しの見直しは行いません。

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【平成28年3月期見通し(連結業績)】	予想	前期実績 (平成27年3月期)	増減
売上高	17,900	17,134	765
営業利益	1,150	915	234
経常利益	900	671	228
親会社株主に帰属する 当期純利益	520	392	127

以上